



雪と牛

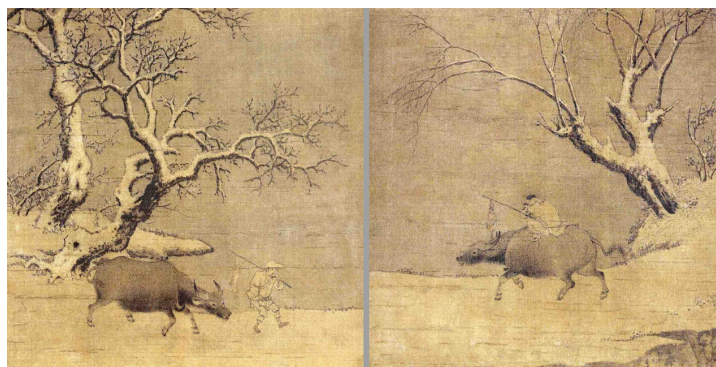
伊藤 大輔（美学美術史学）

明けましておめでとうございます。今年は丑年ですね。全国的に雪の舞う寒さの厳しい年始めでした。雪と牛の組み合わせで思い出される作品があります。それは、中国・南宋時代の画家、李迪（りてき）が描いた「雪中帰牧図」（大和文華館）です。作品は、対幅（ついふく）と言って、二つの画面の組み合わせで成立しています。各面とも縦横 24cm 前後のほぼ正方形の小さな画面で出来ています。

うっすらと雪の積もった山中を、棒の先に獲物をつけた獵師が水牛と一緒に下ってきます。空はどんよりと薄墨で塗り込められ、鬱屈とした冬の冷え寂びた空気を伝えてきます。

厳しい寒さの中、わずかな獲物を得て孤独に帰宅する獵師の姿は、俗世を離れて高潔かつ孤高に生きるという理想を象徴的に表しています。実際の獵師の生活は甘いものではなかったはずですが、一人自由に自然と相対して生きる獵師は、精神の自由を象徴する存在とされました。河で魚を捕る漁師もやはり自由の境涯を象徴する存在でした。右幅では、獵師が水牛の背中に乗っていますが、ここでの水牛は、漁師が乗る舟の代役でしょう。獲物を下げた棒を持つ獵師は、まるで釣り糸を垂れているかのようです。

似たような画面ですが、左右は微妙に違います。左幅に比べて、右幅では、牛の背中にうずくまって身じろぎしない獵師の姿は、より一層寂しげです。比べてみると背後の樹木も、左は小さな枝が花のように賑やかに広がっていますが、右は素っ気ない様子で糸のような細い枝がしょんぼりと垂れ下がっています。冬の厳しさと孤高の生き方が緊張感をもって重なり合う右幅に対して、左幅は孤独な生活の中にも喜びがあることを示しているようです。脱俗の人生の表と裏を対幅で表しているのでしょう。ちなみに、技量の違いから、右幅は李迪の真筆、左幅は右幅に合わせて別人が描いたものとされています。



新年特別コラム

春節——1986年北京にて



春節は旧暦の正月で、新月の日を元旦とします。今年は2月12日です。

北京の正月は、12月8日（以下旧暦）から始まります。この日には五穀豊穡に感謝して臘八粥（ラニバーヂョウ）という甘い粥を食べる風習があります。1986年北京留学当時、隆福寺胡同（フートン）という横町に有名な店があり、地元紙『北京晩報』の広告をチェックして食べに行きました。

年越しに欠かせないのは切り絵に春聯（チュンリエン）に年画（ラニョア）です。切り絵は干支や花鳥などを窓に貼り、春聯は縁起の良い対句を書いた赤い紙を門柱に貼ります。門には邪気を防ぐ一對の門神（メンシェン）を貼ります。年画は縁起の良いモチーフのある版画で、福の到来を願い家の中に貼ります。縁起の良いモチーフは蝙蝠（フウモリ）、鹿（ル）、金魚（キンユ）、花瓶（ビン）など。「蝠」は「福」と、「鹿」は「禄」と、「金魚」は「金玉」と、「瓶」は「平」と発音が同じなのです。

大学の年越しパーティーに参加したときの事です。誰かがジュースの瓶を割ってしまいました。すると即座に誰かが「^{スライスイビンアン}歳歳平安」と言ったのです。「^{スライ}碎（割れる）」と「^{スライ}歳」、「^{ビン}瓶」と「^{ピン}平」とは同音なので、「毎年平安に過ごせますように」と言葉の魔法をかけたのでした。

春節に必ず食べるのは、北方は^{シュイヂャオヅ}水餃子、南方は^{ランガオ}年糕と魚料理です。餃子は亥の刻と「子」の刻が「^{ヂャオ}交」代するの掛詞で、形は昔のお金に似ています。また、米粉を蒸した^{ランガオ}年糕は「^{ガオ}糕」と「^{ガオ}蒿」とが同音で、魚は「^ユ余」と同音です。餃子も年糕も魚も、幸福への願いがこめられています。

春節は、新年最初の満月の日、1月15日の^{ユンシェオヂェ}元宵節まで続きます。満月にちなんだ^{タンユン}湯圓を食し、丸い白玉団子にあやかって一家団圓を祈ります。この日は^{ドンヂェ}灯節とも言い、昔は家の門に謎々を書いた灯籠を掛け、道行く人が謎解きに興じました。留学当時は公園に謎々の紙が何百枚も張りめぐらされ、人々が集まり謎が解けると歓声が上がったものです。もちろん、わたしもその中の一人でした。

（前頁の図版「灯謎——「陰陽合体」とかけて何と解く？」）

（田村 加代子・中国語中国文学・准教授）

分野・専門紹介—File76

ジェンダー学とは？

分野・専門名：ジェンダー学

3年ほど前の第86号に「ジェンダーを知っていますか？」と題して書いたので、今回はジェンダー「学」についてごく簡単ですが紹介します。

辞書等では「ジェンダー」を「生物学的な性差に対し、社会的・文化的に構築された性差」とするような記載が多いかと思いますが、ジェンダー学では各研究の問題意識を反映した、より具体的、詳細な（ジェンダーの）定義に

立脚することも少なくありません。そして、それゆえとも言うべきか、ジェンダー学と称する（称される）研究は随分広範になってきました。私自身は、生まれ持った性によって不平等、不公正、不自由などを被ることが問題であり、そうした問題を見出し、原因を探るのがジェンダー学/研究と考えています。

ジェンダーに悩むのは女性だけではなくありません。「女性の解放」を掲げるフェミニズムをご存じの方（言葉だけでも聞いたことのある方）もおられるでしょうが、「男性だって大変」と主張する研究（「男性学」とも呼ばれます）も近年増えてきています。また、そもそも生物学的な性—身体の性も男性/女性と明確に二分できるものではなく、さらに心の性（関心のある方は、例えば「SOGI（ソジ）」を調べてみて下さい）も加えて、生来の性の多様性に対する認識が広がっているように感じます。

コロナ禍に直面して、世界中で多くのジェンダー問題が浮き彫りになりました。残念ながらとも言えませんが、ジェンダー学/研究にはまだまだ発展の余地が大いにありそうです。名古屋大学には、どなたでもご利用頂ける「ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）」があります（詳細は名古屋大学ホームページから確認頂けます）。皆さんも是非活用して下さい。（図版は、国連による持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）。ここにも「ジェンダー平等（Gender Equality）」が挙げられています。）（新井 美佐子・准教授）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



最近の文学部

素晴らしい1年となりますように！

本号はお正月特集です。各国のお正月の風習を知り、そして国連が目指す理想の社会に思いを馳せながら、新しい年、そして未来にたくさんの夢を描いてください。名大文学部生も学年末・卒業試験の準備に励んでいます。（YK）

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）